



ユーザー アイデンティティ ポリシー

次のトピックでは、アイデンティティ ルールとアイデンティティ ポリシーの作成方法と管理方法について説明します。

- [アイデンティティ ポリシーについて \(1 ページ\)](#)
- [アイデンティティ ポリシーのライセンス要件 \(2 ページ\)](#)
- [アイデンティティ ポリシーの要件と前提条件 \(3 ページ\)](#)
- [アイデンティティ ポリシーの作成 \(3 ページ\)](#)
- [アイデンティティ ルールの条件 \(6 ページ\)](#)
- [アイデンティティ ルールの作成 \(13 ページ\)](#)
- [ID ポリシーおよびルールの例 \(16 ページ\)](#)
- [アイデンティティ ポリシーの管理 \(25 ページ\)](#)
- [アイデンティティ ルールの管理 \(25 ページ\)](#)
- [ユーザー制御のトラブルシューティング \(26 ページ\)](#)

アイデンティティ ポリシーについて

アイデンティティ ポリシーには、アイデンティティ ルールが含まれます。アイデンティティ ルールでは、トラフィックのセットを、レルムおよび認証方式（パッシブ認証、アクティブ認証、または認証なし）と関連付けます。

次の段落の最後に記載されている例外を除き、使用する予定のレルムと認証方式は、アイデンティティ ルールで起動する前に設定する必要があります。

- **[システム (System)] > [統合 (Integration)] > [レルム (Realms)]** でアイデンティティ ポリシー外のレルムを設定します。詳細については、[LDAP レルムまたは Active Directory レルムおよびレルムディレクトリの作成](#)を参照してください。
- パッシブ認証のアイデンティティ ソースである ISE/ISE-PIC は、**[システム (System)] > [統合 (Integration)] > [アイデンティティ ソース (Identity Sources)]** で設定します。
- パッシブ認証のアイデンティティ ソースである TS エージェントについては、システムの外で設定します。詳細については、『*Cisco Terminal Services (TS) Agent Guide*』を参照してください。

- アクティブ認証のアイデンティティ ソースであるキャプティブ ポータルについては、アイデンティティポリシー内で設定します。詳細については、[ユーザー制御のためのキャプティブ ポータルの設定方法](#)を参照してください。
- リモートアクセス VPN ポリシー内では、アクティブな認証アイデンティティ ソースであるリモートアクセス VPN を設定します。詳細については、[リモートアクセス VPN 認証](#)を参照してください。

単一のアイデンティティ ポリシーに複数のアイデンティティ ルールを追加した後、ルールの順番を決めます。システムは、ルール番号の昇順で上から順に、ルールをトラフィックと照合します。トラフィックが一致する最初のルールがそのトラフィックを処理するルールです。

ネットワークオブジェクトでトラフィックをフィルタ処理することもできます。これにより、デバイスがメモリ制限に達しているか、または制限に近い状態の場合に、各デバイスがモニターするネットワークが制限されます。

1つ以上のアイデンティティ ポリシーを設定した後、1つのアイデンティティ ポリシーをアクセス コントロール ポリシーに関連付ける必要があります。ネットワークのトラフィックがアイデンティティルールの条件と一致する場合、システムはトラフィックを指定されたレルムと関連付け、指定されたアイデンティティ ソースを使用してトラフィックのユーザーを認証します。

アイデンティティ ポリシーを設定しない場合、システムはユーザー認証を実行しません。

アイデンティティ ポリシーの作成に関する例外

次のすべてに該当する場合、アイデンティティ ポリシーは必要ありません。

- ISE/ISE-PIC アイデンティティ ソースを使用できます。
- アクセス コントロール ポリシーのユーザまたはグループは使用しません。
- アクセス コントロール ポリシーのセキュリティ グループ タグ (SGT) を使用します。詳細については、[ISE SGT とカスタム SGT ルール条件との比較](#)を参照してください。

関連トピック

[アイデンティティ ポリシーの設定方法](#)

アイデンティティポリシーのライセンス要件

Threat Defense ライセンス

任意 (Any)

従来 of ライセンス

Control

アイデンティティポリシーの要件と前提条件

モデルのサポート

任意

サポートされるドメイン

任意

ユーザの役割

- 管理者
- アクセス管理者
- ネットワーク管理者

アイデンティティポリシーの作成

このタスクでは、アイデンティティポリシーの作成方法について説明します。

始める前に

アイデンティティポリシーは、アクセスコントロールポリシーのレلمでユーザやグループを使用するために必要です。[LDAP レلم](#)または[Active Directory レلم](#)および[レلمディレクトリの作成](#)の説明に従って1つ以上のレلمを作成し、有効にします。

(オプション) 多数のユーザーグループをモニターする特定の管理対象デバイスの場合、管理対象デバイスのメモリ制限のためにグループに基づいてユーザーマッピングがドロップされることがあります。その結果、レلمまたはユーザー条件を使用するルールが想定どおりに実行されない可能性があります。デバイスがバージョン6.7以降を実行している場合は、1つのネットワークまたはネットワークグループオブジェクトのみによってトラフィックをモニターするアイデンティティルールを設定できます。ネットワークオブジェクトの作成については、[ネットワークオブジェクトの作成](#)を参照してください。

次のすべてに該当する場合、アイデンティティポリシーは必要ありません。

- ISE/ISE-PIC アイデンティティソースを使用できます。
- アクセスコントロールポリシーのユーザまたはグループは使用しません。
- アクセスコントロールポリシーのセキュリティグループタグ (SGT) を使用します。詳細については、[ISE SGT とカスタム SGT ルール条件との比較](#)を参照してください。

手順

- ステップ1 Management Center にログインします。
 - ステップ2 [ポリシー (Policies)] > [アクセス制御 (Access Control)] > [アイデンティティ (Identity)] をクリックし、[新しいポリシー (New Policy)] をクリックします。
 - ステップ3 [名前 (Name)] を入力し、必要に応じて [説明 (Description)] を入力します。
 - ステップ4 [保存 (Save)] をクリックします。
 - ステップ5 ポリシーにルールを追加するには、[アイデンティティ ルールの作成 \(13 ページ\)](#) で説明されているように、[ルールの追加 (Add Rule)] をクリックします。
 - ステップ6 ルール カテゴリを作成するには、[カテゴリの追加 (Add Category)] をクリックします。
 - ステップ7 キャプティブポータルアクティブ認証を設定するには、[アクティブ認証 (Active Authentication)] をクリックし、[キャプティブポータル設定パート2: アイデンティティポリシーおよびアクティブ認証ルールの作成](#) を参照します。
 - ステップ8 (オプション) ネットワークオブジェクトでトラフィックをフィルタ処理するには、[Identity Source] タブをクリックします。リストから、この ID ポリシーのトラフィックのフィルタ処理に使用するネットワークオブジェクトをクリックします。新しいネットワークオブジェクトを作成するには、**Add (+)** をクリックします。
 - ステップ9 [保存 (Save)] をクリックして、アイデンティティ ポリシーを保存します。
-

次のタスク

- 照合するユーザおよび他のオプションを指定するルールを、アイデンティティポリシーに追加します ([アイデンティティ ルールの作成 \(13 ページ\)](#) を参照)。
- 指定したリソースへのアクセスを特定のユーザーに許可またはブロックするには、このアイデンティティポリシーをアクセスコントロールポリシーに関連付けます ([アクセス制御への他のポリシーの関連付け](#) を参照)。
- (Microsoft Azure AD レルムの場合は不要です)。設定変更を管理対象デバイスに展開します ([設定変更の展開](#) を参照)。

問題が発生した場合は、[ユーザー制御のトラブルシューティング \(26 ページ\)](#) を参照してください。

関連トピック

- [キャプティブポータル設定パート2: アイデンティティポリシーおよびアクティブ認証ルールの作成](#)
- [アイデンティティ マッピング フィルタの作成 \(5 ページ\)](#)
- [キャプティブポータルフィールド](#)
- [ユーザー制御のトラブルシューティング \(26 ページ\)](#)

アイデンティティマッピングフィルタの作成

アイデンティティマッピングフィルタを使用して、アイデンティティルールが適用されるネットワークを制限できます。たとえば、Management Center がメモリ量の限られた FTD を管理している場合、モニターするネットワークを制限できます。

必要に応じて、以下からサブネットを除外することもできます。

- ユーザーから IP へ、およびセキュリティグループタグ (SGT) から IP へのマッピングを ISE から受信する。

通常は、Snort アイデンティティ正常性モニターのメモリエラーを防ぐために、メモリの少ない管理対象デバイスに対してこれを行う必要があります。

始める前に

次の作業を実行します。

1. アイデンティティポリシーに必要なレームを作成します。[LDAPレームまたはActive Directoryレームおよびレームディレクトリの作成](#)を参照してください。
2. アイデンティティポリシーを作成します。[アイデンティティポリシーの作成 \(3 ページ\)](#)を参照してください。
3. [ネットワークオブジェクトの作成](#)の説明に従って、ネットワークオブジェクトまたはネットワークグループオブジェクトを作成します。作成するネットワークオブジェクトまたはグループでは、管理対象デバイスがアイデンティティポリシーでモニターするネットワークを定義する必要があります。

手順

ステップ 1 Management Center にログインします。

ステップ 2 [ポリシー (Policies)] > [アイデンティティ (Identity)] をクリックします。

ステップ 3 [編集 (Edit)] (✎) をクリックします。

ステップ 4 [アイデンティティの送信元 (Identity Source)] タブをクリックします。

ステップ 5 [アイデンティティマッピングフィルタ (Identity Mapping Filter)] リストから、フィルタとして使用するネットワークオブジェクトの名前をクリックする。

新しいネットワークオブジェクトを作成するには、[ネットワークオブジェクトの作成](#)を参照してください。

(注) トラフィックを IPv6 アドレスに制限するには、少なくとも 1 つのアドレス、ネットワーク、またはグループをフィルタに追加する必要があります。

ステップ 6 [Save (保存)] をクリックします。

ステップ 7 (Microsoft Azure AD レルムの場合は不要です)。設定変更を管理対象デバイスに展開します ([設定変更の展開](#)を参照)。

次のタスク

(Microsoft Azure AD レルムの場合は不要です)。アイデンティティ ポリシーをアクセス コントロール ポリシーに関連付けます ([アクセス制御への他のポリシーの関連付け](#)を参照)。

ISE アイデンティティ マッピング フィルタ (サブネット フィルタとも呼ばれる) を確認または変更するには、以下のコマンドを使用します。

```
show identity-subnet-filter
configure identity-subnet-filter { add | remove } subnet
```

アイデンティティルールの条件

ルール条件を使用すると、アイデンティティポリシーを微調整して、制御するユーザーとネットワークをターゲットにすることができます。詳細については、次の項を参照してください。

関連トピック

- [セキュリティゾーンルール条件](#)
- [ネットワークルール条件](#)
- [VLAN タグルール条件](#)
- [ポートルールの条件](#)
- [レルムと設定のルール条件](#) (10 ページ)

セキュリティゾーンルール条件

セキュリティゾーンを利用すると、ネットワークをセグメント化し、複数のデバイスでインターフェイスをグループ化して、トラフィックフローを管理および分類する上で助けになります。

ゾーンのルール条件では、トラフィックをその送信元と宛先のセキュリティゾーンで制御します。送信元ゾーンと宛先ゾーンの両方をゾーン条件に追加すると、送信元ゾーンのいずれかにあるインターフェイスから発信され、宛先ゾーンのいずれかにあるインターフェイスを通過するトラフィックだけが一致することになります。

ゾーン内のすべてのインターフェイスは同じタイプ (すべてインライン、パッシブ、スイッチド、またはルーテッド) である必要があるのと同じく、ゾーン条件で使用するすべてのゾーンも同じタイプである必要があります。パッシブに展開されたデバイスはトラフィックを送信しないため、パッシブインターフェイスのあるゾーンを宛先ゾーンとして使用することはできません。

可能な場合は常に、一致基準を空のままにします (特にセキュリティゾーン、ネットワークオブジェクト、およびポートオブジェクトの場合)。基準を複数指定すると、指定した条件の内容についてすべての組み合わせと照合する必要があります。



ヒント ゾーンによってルールを制限することは、システムのパフォーマンスを向上させる最適な手段の1つです。ルールがデバイスのインターフェイスを通過するトラフィックに適用しなければ、ルールがそのデバイスのパフォーマンスに影響することはありません。

セキュリティゾーン条件とマルチテナンシー

マルチドメイン導入では、先祖ドメイン内に作成されるゾーンに、別のドメイン内にあるデバイス上のインターフェイスを含めることができます。子孫ドメイン内のゾーン条件を設定すると、その設定は表示可能なインターフェイスだけに適用されます。

ネットワークルール条件

ネットワークルールの条件では、内部ヘッダーを使用して、送信元と宛先の IP アドレスを基準にトラフィックを制御します。外部ヘッダーを使用するトンネルルールでは、ネットワーク条件の代わりにトンネルエンドポイント条件を使用します。

事前定義されたオブジェクトを使用してネットワーク条件を作成することも、個々の IP アドレスまたはアドレスブロックを手動で指定することもできます。



(注) アイデンティティルールで FQDN ネットワークオブジェクトを使用することはできません。

可能な場合は常に、一致基準を空のままにします（特にセキュリティゾーン、ネットワークオブジェクト、およびポートオブジェクトの場合）。基準を複数指定すると、指定した条件の内容についてすべての組み合わせと照合する必要があります。

ホスト名ネットワークルール条件にリダイレクト

(Snort 3.0 のみ) キャプティブポータルがアクティブな認証要求に使用できるインターフェイスの完全修飾ホスト名 (FQDN) を含むネットワークオブジェクトを使用できます。

FQDN は、管理対象デバイス上のいずれかのインターフェイスの IP アドレスに解決される必要があります。FQDN を使用すると、クライアントが認識するアクティブ認証用の証明書を割り当てることができます。これにより、管理対象デバイスの IP アドレスにリダイレクトされたときにユーザーに表示される信頼できない証明書の警告を回避できます。

証明書では、1つの FQDN、ワイルドカード FQDN、または複数の FQDN をサブジェクト代替名 (SAN) に指定できます。

アイデンティティルールによりユーザーのアクティブ認証が要求されているが、リダイレクト FQDN を指定していない場合、ユーザーは、接続されている管理対象デバイスのインターフェイス上のキャプティブポータルポートにリダイレクトされます。

[ホスト名にリダイレクト (Redirect to Host Name)] FQDN を指定しない場合、HTTP 基本、HTTP 応答ページ、および NTLM 認証方式では、インターフェイスの IP アドレスを使用してユーザーがキャプティブポータルにリダイレクトされます。ただし、HTTP ネゴシエートでは、

ユーザーは完全修飾 DNS 名 *firewall-hostname.directory-server-domain-name* を使用してリダイレクトされます。[ホスト名にリダイレクト (Redirect to Host Name)] FQDN を指定せずに HTTP ネゴシエートを使用するには、アクティブ認証が必要なすべての内部インターフェイスの IP アドレスにこの名前をマッピングするように DNS サーバーを更新する必要があります。そうしないと、リダイレクトは実行できず、ユーザを認証できません。

認証方式に関係なく一貫した動作を確保するために、[ホスト名にリダイレクト (Redirect to Host Name)] FQDN を常に指定することを推奨します。

VLAN タグルール条件



(注) アクセスルールの VLAN タグは、インラインセットにのみ適用されます。VLAN タグを持つアクセスルールは、ファイアウォール インターフェイス上のトラフィックを照合しません。

VLAN ルール条件によって、Q-in-Q (スタック VLAN) など、VLAN タグ付きトラフィックが制御されます。システムでは、プレフィルタ ポリシー (そのルールで最も外側の VLAN タグを使用する) を除き、最も内側の VLAN タグを使用して VLAN トラフィックをフィルタ処理します。

次の Q-in-Q サポートに注意してください。

- Firepower 4100/9300 上の Threat Defense : Q-in-Q をサポートしません (1 つの VLAN タグのみをサポート)。
- 他のすべてのモデルの Threat Defense
 - インラインセットおよびパッシブインターフェイス : Q-in-Q をサポートします (最大 2 つの VLAN タグをサポート)。
 - ファイアウォール インターフェイス : Q-in-Q をサポートしません (1 つの VLAN タグのみをサポート)。

事前定義のオブジェクトを使用して VLAN 条件を作成でき、また 1 ~ 4094 の VLAN タグを手動で入力することもできます。VLAN タグの範囲を指定するには、ハイフンを使用します。

クラスターで VLAN マッチングに問題が発生した場合は、アクセス コントロール ポリシーの詳細オプションである [トランスポート/ネットワークリプロセッサ設定 (Transport/Network Preprocessor Settings)] を編集し、[接続の追跡時に VLAN ヘッダーを無視する (Ignore the VLAN header when tracking connections)] オプションを選択します。

ポートルールの条件

ポート条件を使用することで、トラフィックの送信元および宛先のポートに応じてそのトラフィックを制御できます。

可能な場合は常に、一致基準を空のままにします（特にセキュリティゾーン、ネットワークオブジェクト、およびポートオブジェクトの場合）。基準を複数指定すると、指定した条件の内容についてすべての組み合わせと照合する必要があります。

ポートベースのルールのベストプラクティス

ポートの指定は、アプリケーションをターゲット指定するための従来の方法です。ただし、アプリケーションは、固有のポートを使用してアクセスコントロールブロックをバイパスするように設定することが可能です。そのため、可能な場合は常に、ポート基準ではなくアプリケーションフィルタリング基準を使用してトラフィックをターゲット指定します。

アプリケーションフィルタリングは、制御フローとデータフローのために個別のチャンネルを動的に開くアプリケーション（Threat Defense など）にも推奨されます。ポートベースのアクセスコントロールルールを使用すると、これらの種類のアプリケーションが正しく動作しなくなり、望ましい接続がブロックされる可能性があります。

送信元と宛先ポートの制約の使用

送信元ポートと宛先ポートの両方を制約に追加する場合、単一のトランスポートプロトコル（TCP または UDP）を共有するポートのみを追加できます。たとえば、送信元ポートとして DNS over TCP を追加する場合は、宛先ポートとして Yahoo Messenger Voice Chat（TCP）を追加できますが、Yahoo Messenger Voice Chat（UDP）は追加できません。

送信元ポートのみ、あるいは宛先ポートのみを追加する場合は、異なるトランスポートプロトコルを使用するポートを追加できます。たとえば、DNS over TCP および DNS over UDP の両方を 1 つのアクセスコントロールルールの送信元ポート条件として追加できます。

ポート、プロトコル、および ICMP コードルールの条件

ポート条件により、送信元ポートと宛先ポートに基づいてトラフィックが照合されます。ルールのタイプによって、「ポート」は次のいずれかを表します。

- **TCP と UDP** : TCP と UDP のトラフィックは、ポートに基づいて制御できます。システムは、カッコ内に記載されたプロトコル番号+オプションの関連ポートまたはポート範囲を使用してこの設定を表します。例：TCP(6)/22。
- **ICMP** : ICMP および ICMPv6（IPv6 ICMP）トラフィックは、そのインターネット層プロトコルと、オプションでタイプおよびコードに基づいて制御できます。例：ICMP(1):3:3
- **プロトコル** : ポートを使用しないその他のプロトコルを使用してトラフィックを制御できます。

可能な場合は常に、一致基準を空のままにします（特にセキュリティゾーン、ネットワークオブジェクト、およびポートオブジェクトの場合）。基準を複数指定すると、指定した条件の内容についてすべての組み合わせと照合する必要があります。

ポートベースのルールのベストプラクティス

ポートの指定は、アプリケーションをターゲット指定するための従来の方法です。ただし、アプリケーションは、固有のポートを使用してアクセスコントロールブロックをバイパスする

ように設定することが可能です。そのため、可能な場合は常に、ポート基準ではなくアプリケーションフィルタリング基準を使用してトラフィックをターゲット指定します。なお、プレフィルタルールではアプリケーションフィルタリングを使用できません。

アプリケーションフィルタリングは、制御フローとデータフローのために個別のチャンネルを動的に開くアプリケーション（FTD など）にも推奨されます。ポートベースのアクセスコントロールルールを使用すると、これらの種類のアプリケーションが正しく動作しなくなり、望ましい接続がブロックされる可能性があります。

送信元と宛先ポートの制約の使用

送信元ポートと宛先ポートの両方を制約に追加する場合、単一のトランスポートプロトコル（TCP または UDP）を共有するポートのみを追加できます。たとえば、送信元ポートとして DNS over TCP を追加する場合は、宛先ポートとして Yahoo Messenger Voice Chat（TCP）を追加できますが、Yahoo Messenger Voice Chat（UDP）は追加できません。

送信元ポートのみ、あるいは宛先ポートのみを追加する場合は、異なるトランスポートプロトコルを使用するポートを追加できます。たとえば、DNS over TCP と DNS over UDP の両方を 1 つのアクセスコントロールルールの宛先ポート条件として追加できます。

ポート条件を使用した非 TCP トラフィックの照合

ポートベースではないプロトコルを照合できます。デフォルトでは、ポート条件を指定しない場合は IP トラフィックを照合します。非 TCP トラフィックを照合するためのポート条件を設定することはできますが、いくつかの制約事項があります。

- **アクセスコントロールルール**：クラシック デバイスの場合、GRE でカプセル化されたトラフィックをアクセスコントロールルールに照合するには、宛先ポート条件として GRE（47）プロトコルを使用します。GRE 制約ルールには、ネットワークベースの条件（ゾーン、IP アドレス、ポート、VLAN タグ）のみを追加できます。また、GRE 制約ルールが設定されたアクセスコントロールポリシーでは、システムが外側のヘッダーを使用してすべてのトラフィックを照合します。Threat Defense デバイスの場合、GRE でカプセル化されたトラフィックを制御するには、プレフィルタ ポリシーでトンネルルールを使用します。
- **番号ルール**：これらのルールは TCP ポート条件のみをサポートします。
- **ICMP エコー**：タイプ 0 が設定された宛先 ICMP ポート、またはタイプ 129 が設定された宛先 ICMPv6 ポートは、要求されていないエコー応答だけと照合されます。ICMP エコー要求への応答として送信される ICMP エコー応答は無視されます。ルールですべての ICMP エコーに一致させるには、ICMP タイプ 8 または ICMPv6 タイプ 128 を使用してください。

レームと設定のルール条件

[レームと設定 (Realm & Settings)] タブページでは、アイデンティティルールを適用するレームまたはレームシーケンスを選択できます。キャプティブポータルを使用している場合は、追加のオプションがあります。

認証レلم (Authentication Realm)

[レلم (Realm)] リストから、レلمまたはレلمシーケンスをクリックします。

[アクション (Action)] で指定されたアクションの実行対象になるユーザーが含まれるレلمまたはレلمシーケンス。アイデンティティルールのレلمまたはレلمシーケンスとして選択する前に、これを完全に設定する必要があります。



- (注) リモート アクセス VPN が有効で、展開で VPN 認証に RADIUS サーバー グループを使用している場合は、この RADIUS サーバー グループに関連付けられているレلمを指定してください。

アクティブ認証のみ：その他のオプション

認証タイプとして [アクティブ認証 (Active Authentication)] を選択するか、[パッシブまたは VPN ID を確立できない場合はアクティブ認証を使用 (Use active authentication if passive or VPN identity cannot be established)] チェックボックスをオンにした場合、次のオプションがあります。

パッシブまたは VPN ID を確立できない場合はアクティブ認証を使用

(パッシブ認証ルールのみ) このオプションを選択すると、パッシブまたは VPN 認証でユーザーを識別できない場合にキャプティブポータルアクティブ認証を使用してユーザーが認証されます。このオプションを選択するには、アイデンティティポリシーでアクティブ認証ルールを設定する必要があります。(つまり、ユーザーはキャプティブポータルを使用して認証する必要があります)

このオプションを無効にすると、VPN ID を持たないユーザーまたはパッシブ認証では識別できないユーザーは、「不明 (Unknown)」と識別されます。

このトピックで後述する認証レلمリストの説明も参照してください。

認証でユーザーを識別できない場合は特別 ID/ゲストとして識別する (Identify as Special Identities/Guest if authentication cannot identify user)

このオプションを選択すると、キャプティブポータルアクティブ認証に指定された回数失敗したユーザーがゲストとしてネットワークにアクセスできます。これらのユーザーは、Management Center 上ではユーザー名 (ユーザー名が AD または LDAP サーバーに存在する場合) または [ゲスト (Guest)] (ユーザー名が不明の場合) で表示されます。これらのユーザーのレلمは、アイデンティティルールで指定されたレلمです。(デフォルトでは、失敗したログインの数は 3 回です。)

ルールアクションとして [アクティブ認証 (Active Authentication)] (つまり、キャプティブポータル認証) を設定している場合にのみ、このフィールドが表示されます。

認証プロトコル (Authentication Protocol)

キャプティブポータルアクティブ認証を実行するために使用する方法です。応答ページでログインしたときにユーザーに表示される内容の例を [アクティブ認証ルールによるサンプルアイデンティティポリシーの作成 \(19 ページ\)](#) に示します。

選択は、レーム、LDAP、または AD のタイプによって異なります。

- 暗号化されていない HTTP 基本認証 (BA) 接続を使用してユーザを認証するには、[HTTP 基本 (HTTP Basic)] を選択します。ユーザーはブラウザのデフォルトの認証ポップアップウィンドウを使用してネットワークにログインします。

ほとんどの Web ブラウザは、**HTTP 基本**ログインからクレデンシャルをキャッシュし、古いセッションがタイムアウトした後にシームレスに新しいセッションを開始するためにそのクレデンシャルを使用します。

- NT LAN Manager (NTLM) 接続を使用してユーザを認証するには **NTLM** を選択します。この選択は AD レームを選択するときのみ使用できます。透過的な認証がユーザーのブラウザで設定されている場合、ユーザーは自動的にログインします。透過的な認証が設定されていない場合、ユーザーは各自のブラウザでデフォルトの認証ポップアップウィンドウを使用してネットワークにログインします。
- Kerberos 接続を使用してユーザを認証する場合は、[Kerberos] を選択します。この選択は、セキュア LDAP (LDAPS) が有効になっているサーバーに対して AD レームを選択する場合にのみ可能です。透過的な認証がユーザーのブラウザで設定されている場合、ユーザーは自動的にログインします。透過的な認証が設定されていない場合、ユーザーは各自のブラウザでデフォルトの認証ポップアップウィンドウを使用してネットワークにログインします。



- (注) 選択する [レーム (Realm)] は、Kerberos キャプティブ ポータル アクティブ認証を実行するために、[AD 参加ユーザ名 (AD Join Username)] および [AD 参加パスワード (AD Join Password)] を使用して設定する必要があります。



- (注) Kerberos キャプティブ ポータルを実行するアイデンティティルールを作成しようとしており、DNS 解決は設定済みである場合は、キャプティブポータルデバイスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を解決する DNS サーバーを設定する必要があります。FQDN は、DNS の設定時に指定したホスト名と一致する必要があります。

Threat Defense デバイスの場合、FQDN は、キャプティブポータルに使用されるルーテッドインターフェイスの IP アドレスに解決される必要があります。

- キャプティブポータルサーバーが認証接続に HTTP 基本認証、Kerberos、または NTLM を選択できるようにするには、[HTTP ネゴシエート (HTTP Negotiate)] を選択します。このタイプは AD レームを選択するときのみ使用できます。



- (注) 選択する [レルム (Realm)] は、[HTTP ネゴシエート (HTTP Negotiate)] で Kerberos キャプティブ ポータル アクティブ 認証を選択するために、[AD 参加ユーザー名 (AD Join Username)] および [AD 参加パスワード (AD Join Password)] を使用して設定する必要があります。



- (注) [HTTP ネゴシエート (HTTP Negotiate)] キャプティブ ポータル を実行するアイデンティティ ルールを作成しようとしており、DNS 解決は設定済みである場合は、キャプティブ ポータル デバイスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を解決する DNS サーバを設定する必要があります。キャプティブポータルに使用するデバイスの FQDN は、DNS の設定時に入力したホスト名と一致している必要があります。

- ユーザーがログインするレルムを選択できるようにするには、[HTTP 応答ページ (HTTP Response Page)] を選択します。

必要に応じて、応答ページをカスタマイズできます。たとえば、会社のスタイル標準に準拠できます。

アクティブ認証レルム

(パッシブ認証ルールのみ) [パッシブまたはVPNアイデンティティを確立できない場合にアクティブ認証を使用する (Use active authentication if passive or VPN identity cannot be established)] をクリックした場合は、レルムまたはレルムシーケンスの名前をクリックする必要があります。レルムまたはレルムシーケンスの可用性は、認証プロトコルの選択によって以下のように決定されます。

- **HTTP 基本**または**HTTP 応答ページ**認証プロトコル：レルムまたはレルムシーケンスのいずれかを選択できます。
- **NTLM**、**Kerberos**、または**HTTP ネゴシエート**認証プロトコル：レルムのみを選択できます。レルムシーケンスは選択できません。

アイデンティティ ルールの作成

アイデンティティ ルールの設定オプションに関する詳細については、[アイデンティティ ルール フィールド \(15 ページ\)](#) を参照してください。

始める前に

レルムまたはレルムシーケンスを作成して有効にする必要があります。



- LDAP レルムまたは [Active Directory レルムおよびレルムディレクトリの作成](#)の説明に従って、Microsoft Azure Active Directory レルムおよびレルムディレクトリを作成します。
- (Microsoft AD レルムのみ)。ユーザーおよびグループをダウンロードし、[ユーザーとグループの同期](#)で説明したようにレルムを有効にします。
- [Azure ADレルムの作成](#)の説明に従って、Microsoft Azure Active Directory レルムを作成します。
- (オプション) [レルムシーケンスの作成](#)の説明に従って、レルムシーケンスを作成します。
- ルールは、トップダウン方式で評価されます。特定のルールの指定されたネットワーク基準に一致する接続の場合、ユーザーは、ルールで指定されたアイデンティティレルムに対して評価されます。そのレルムの一部ではない場合、そのユーザーは不明としてマークされ、アイデンティティポリシー内のそれ以上のルールは評価されません。そのため、評価する必要があるレルムが複数ある場合は、単一のレルムではなく、必ずレルムシーケンスを使用してください。



注意 TLS/SSL 復号が無効の場合（つまりアクセス コントロール ポリシーに 復号ポリシーが含まれない場合）に、アクティブな最初の認証ルールを追加するか、アクティブな最後の認証ルールを削除すると設定の変更を展開する際に **Snort** プロセスが再起動され、一時的にトラフィックのインスペクションが中断されます。この中断中にトラフィックがドロップされるか、それ以上インスペクションが行われずに受け渡されるかは、ターゲットデバイスがトラフィックを処理する方法に応じて異なります。詳細は[Snort の再起動によるトラフィックの動作](#)を参照してください。

アクティブな認証ルールに [アクティブ認証 (Active Authentication)] ルールアクションが含まれるか、[パッシブ/VPNアイデンティティを確立できない場合にアクティブ認証を使用 (Use active authentication if passive or VPN identity cannot be established)] が選択された [パッシブ認証 (Passive Authentication)] ルールアクションが含まれることに注意してください。

手順

- ステップ 1** Management Center にログインします。
- ステップ 2** [ポリシー (Policies)] > [アクセス制御 (Access Control)] > [アイデンティティ (Identity)] をクリックします。
- ステップ 3** アイデンティティルールの追加先となるアイデンティティポリシーの横にある [編集 (Edit)] () をクリックします。
代わりに [表示 (View)] () が表示される場合、設定は先祖ドメインに属しており、設定を変更する権限がありません。
- ステップ 4** [ルールの追加 (Add Rule)] をクリックします。
- ステップ 5** 名前を入力します。

- ステップ 6** 指定されたルールを適用する場合は、[有効 (Enabled)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 7** 既存のカテゴリにルールを追加するには、ルールを [挿入 (Insert)] する場所を指定します。新しいカテゴリを追加するには、[カテゴリの追加 (Add Category)] をクリックします。
- ステップ 8** 一覧からルール [アクション (Action)] を選択します。
- ステップ 9** キャプティブ ポータルを設定する場合は、[ユーザー制御のためのキャプティブ ポータルの設定方法](#)を参照してください。
- ステップ 10** (オプション) アイデンティティルールに条件を追加するには、[アイデンティティルールの条件 \(6 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 11** [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 12** ポリシーエディタで、ルールの位置を設定します。クリックしてドラッグするか、または右クリックメニューを使用してカットアンドペーストを実行します。ルールには1から番号が付けられます。システムは、ルール番号の昇順で上から順に、ルールをトラフィックと照合します。トラフィックが一致する最初のルールは、そのトラフィックを処理するルールです。適切なルールの順序を指定することで、ネットワークトラフィックの処理に必要なリソースが削減され、ルールのプリエンブションを回避できます。
- ステップ 13** [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

- 設定変更を展開します [設定変更の展開](#) を参照してください。

アイデンティティ ルール フィールド

次のフィールドを使用して、アイデンティティ ルールを設定します。

[有効 (Enabled)]

このオプションを有効にすると、ID ポリシーのアイデンティティルールが有効になります。このオプションの選択を解除すると、アイデンティティルールが無効になります。

アクション (Action)

指定したレルムでユーザーに対して実行する認証のタイプを指定します。これには、[パッシブ認証 (Passive Authentication)] (デフォルト) 、[アクティブ認証 (Active Authentication)]、または[認証なし (No Authentication)] があります。アイデンティティルールのアクションとして選択する前に、認証方式、またはアイデンティティ ソースを完全に設定する必要があります。

さらに、VPNが有効になっている場合 (少なくとも1つの管理対象デバイスで設定されている場合) 、リモートアクセス VPNセッションはVPNによってアクティブに認証されます。他のセッションはルールアクションを使用します。つまり、VPNが有効になっている場合は、選択したアクションに関係なく、すべてのセッションでVPN IDの判別が最初に行われます。指定されたレルム上にVPN IDが見つかった場合、これは使用されるアイデンティティ ソースになります。選択されていても、追加のキャプティブ ポータル アクティブ認証は実行されません。

VPN アイデンティティ ソースが見つからない場合は、指定されたアクションに従ってプロセスが続行されます。アイデンティティ ポリシーを VPN 認証のみに制限することはできません。VPN ID が見つからない場合は、選択されたアクションに従ってルールが適用されるためです。



注意 TLS/SSL 復号が無効の場合（つまりアクセス コントロール ポリシーに SSL ポリシーが含まれない場合）に、アクティブな最初の認証ルールを追加するか、アクティブな最後の認証ルールを削除すると 設定の変更を展開する際に Snort プロセスが再起動され、一時的にトラフィックのインスペクションが中断されます。この中断中にトラフィックがドロップされるか、それ以上インスペクションが行われずに受け渡されるかは、ターゲットデバイスがトラフィックを処理する方法に応じて異なります。詳細は[Snort の再起動によるトラフィックの動作](#)を参照してください。

アクティブな認証ルールに [アクティブ認証 (Active Authentication)] ルールアクションが含まれるか、[パッシブ/VPN アイデンティティを確立できない場合にアクティブ認証を使用 (Use active authentication if passive or VPN identity cannot be established)] が選択された [パッシブ認証 (Passive Authentication)] ルールアクションが含まれることに注意してください。

使用中のシステムのバージョンでサポートされるパッシブおよびアクティブ認証方式の詳細については、[ユーザー アイデンティティ ソースについて](#)を参照してください。

ID ポリシーおよびルールの例

以下のセクションでは、パッシブ認証ルールまたはアクティブ認証ルールを使用して ID ポリシーを設定する例を示します。さらに、レルムまたはレルムシーケンスのいずれかを使用してアクティブ認証でユーザーを認証できるため、別の例を示します。

アクティブ認証とは、キャプティブポータルを使用してユーザーを認証することを意味します。ユーザーは、許可されたリソースにアクセスするためにネットワークログイン情報を入力します。（RA-VPN は別のタイプのアクティブ認証ですが、キャプティブポータル認証と一緒に使用することはできません。詳細については、[リモート アクセス VPN アイデンティティ ソース](#)を参照してください）。

パッシブ認証は、他のすべてのタイプを指します。パッシブ認証には、Microsoft Active Directory レルム、Microsoft Azure Active Directory レルム、Cisco Identity Services Engine などの使用が含まれます。

前提条件

例では以下の前提条件を使用しています。

- 信頼関係で設定された 2 つの子ドメインを持つ、「forest.example.com」という名前の Microsoft Active Directory (AD) レルム：
 - 米国西部

- 米国東部
- 両方のレルムを含む「US」という名前のレルムシーケンス
- レルムシーケンスを使用してユーザーを認証するパッシブ認証ルール
- 2つのアクティブな認証ルール：
 - レルムでユーザーを認証し、NTLM 認証プロトコルを使用する 1つのルール
 - レルムシーケンスでユーザーを認証し、HTTP 応答ページ認証プロトコルを使用する 1つのルール
- 各 ID ルールの例は、異なる ID ポリシーに関連付けられています。

パッシブ認証 ID ルール

パッシブ認証 ID ルールを設定する場合、LDAP、Microsoft Active Directory レルム、または Microsoft AD レルムシーケンスのいずれかを使用してユーザーを認証することを選択できます。レルムを使用して、任意の認証タイプで認証できます。レルムシーケンスでは、使用できる認証タイプが制限されます。例については、[パッシブな認証ルールによるアイデンティティポリシーの作成 \(17 ページ\)](#) を参照してください。

アクティブ認証 ID ルール。

アクティブ認証 ID ルールを設定する場合、LDAP、Microsoft Active Directory レルム、または Microsoft AD レルムシーケンスのいずれかを使用してユーザーを認証することを選択できます。レルムを使用して、任意の認証タイプで認証できます。レルムシーケンスでは、使用できる認証タイプが制限されます。

以下の認証タイプを除き、Microsoft Active Directory レルムシーケンスを使用してユーザーを認証することもできます。

- NTLM
- Kerberos
- HTTP ネゴシエート

例については、[アクティブ認証ルールによるサンプルアイデンティティポリシーの作成 \(19 ページ\)](#) を参照してください。

パッシブな認証ルールによるアイデンティティポリシーの作成

このタスクでは、US レルムシーケンスを使用してユーザーを認証するパッシブ認証ルールを使用してアイデンティティポリシーを作成する方法について説明します。シーケンス内の最初のレルムでユーザーが見つからない場合、システムは、レルムシーケンスにリストされている順序で、シーケンス内の他のレルムを検索します。それでもレルムまたはレルムシーケンス内でユーザーが見つからない場合、そのユーザーは [不明 (Unknown)] として識別されます。

ユーザーがシーケンスのどのレルムにも見つからない場合は、キャプティブポータル（アクティブ認証）でユーザーを認証することもできます。詳細については、「[キャプティブポールのガイドラインと制約事項](#)」を参照してください。

手順

- ステップ 1 Management Center にログインします。
- ステップ 2 [ポリシー (Policies)] > [アクセス制御 (Access Control)] > [アイデンティティ (Identity)] をクリックします。
- ステップ 3 [新しいポリシー (New Policy)] をクリックします。
- ステップ 4 ポリシーの [名前 (Name)] と、必要に応じて [説明 (Description)] を入力します。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6 [ルールの追加 (Add Rule)] をクリックします。
- ステップ 7 ルールの [名前 (Name)] を入力します。
- ステップ 8 リストから [パッシブ認証 (Passive Authentication)] をクリックします。
- ステップ 9 [レルムおよび設定 (Realms & Settings)] タブページをクリックします。
- ステップ 10 リストから、レルムまたはレルムシーケンスの名前をクリックします。

次の図は例を示しています。

The screenshot shows the 'Add Rule' configuration interface. The 'Name' field contains 'Passive rule', and the 'Enabled' checkbox is checked. The 'Authentication' dropdown is set to 'Passive Authentication'. The 'Authentication Realm' dropdown is open, showing a list of realms: 'US-East (AD)', 'US-West (AD)', 'LDAP (LDAP)', and 'US (Sequence)'. The 'US (Sequence)' option is selected and highlighted. Below the dropdown, a note indicates 'or VPN identity cannot be established'. The 'Realms & Settings' tab is active. At the bottom, there are 'Cancel' and 'Add' buttons.

- レルムを選択すると（例のように **US-East** など）、システムは、ルールに一致するユーザーをそのレルムで検索します。ユーザーが見つからない場合、そのユーザーは [不明 (Unknown)] として識別されます。
- レルムシーケンスを選択した場合（例のように **US (Sequence)** など）、レルムシーケンスで指定された順序でシーケンス内のすべてのレルムでユーザーが検索されます。ユーザーが見つからない場合、そのユーザーは [不明 (Unknown)] として識別されます。
- LDAP レルムを選択することもできます。

- ユーザーを認証する他の方法については、「[パッシブまたはVPN ID を確立できない場合はアクティブ認証を使用](#)」をご確認ください。詳細については、「[キャプティブポータルのガイドラインと制約事項](#)」を参照してください。

以下の図は、US レルムシーケンスでユーザーを検索するように設定されたパッシブ アイデンティティ ポリシーの例を示しています。

- ステップ 11** (オプション) ネットワークオブジェクトでトラフィックをフィルタ処理するには、[Identity Source] タブをクリックします。リストから、この ID ポリシーのトラフィックのフィルタ処理に使用するネットワークオブジェクトをクリックします。新しいネットワークオブジェクトを作成するには、**Add (+)** をクリックします。
- ステップ 12** アイデンティティ条件を設定します ([アイデンティティルールの条件 \(6 ページ\)](#) を参照)。
- ステップ 13** アイデンティティルールをアクセス制御ルールに関連付けます ([アクセス制御への他のポリシーの関連付け](#) を参照)。
- ステップ 14** 設定変更を管理対象デバイスに展開します ([設定変更の展開](#) を参照)。

アクティブ認証ルールによるサンプル アイデンティティ ポリシーの作成

この関連タスクでは、レルムまたはレルムシーケンスのいずれかを使用して認証が実行される「アクティブ認証」ルールによってアイデンティティポリシーを設定する例を示します。

違いは次のとおりです。

- レルムでは、サポートされている任意の認証タイプ (現時点では、**HTTP 基本**、**NTLM**、**Kerberos**、**HTTP ネゴシエート**、または **HTTP 応答ページ**) を使用できます。

- レルムシーケンスでは、認証タイプが **HTTP 基本**と **HTTP 応答ページ**のみに制限されます。

レルムシーケンスと HTTP 応答ページ認証タイプで認証されたユーザーには、デフォルトで次のように表示されます。

ユーザーは、次のいずれかの方法で認証できます。

- レルムシーケンスに含まれるレルムのリストが表示される場合（図を参照）、ユーザーは、表示されたフィールドにユーザー名とパスワードを入力し、リストにあるユーザーのレルムの名前をクリックする必要があります。
- レルムがリストに表示されない場合、ユーザーはログイン情報を `username@domain` 形式で入力できます。

レルムと HTTP 基本認証ページで認証されるユーザーには、次の情報が表示されます。

ユーザーは、`username@domain` の形式でユーザー名を入力する必要があります。

手順

- ステップ 1** Management Center にログインします。
- ステップ 2** [ポリシー (Policies)] > [アクセス制御 (Access Control)] > [アイデンティティ (Identity)] をクリックします。

- ステップ 3** [新しいポリシー (New Policy)]をクリックします。
- ステップ 4** ポリシーの [名前 (Name)]と、必要に応じて [説明 (Description)]を入力します。
- ステップ 5** [保存 (Save)]をクリックします。
- ステップ 6** [アクティブ認証 (Active Authentication)]タブをクリックします。
- ステップ 7** 次の情報を入力します。

- [サーバー証明書 (Server Certificate)]: リストから、Threat Defense デバイスへのセキュアな接続に使用する内部証明書オブジェクトをクリックするか、**Add (+)** をクリックしてオブジェクトを追加します。
- [ホスト名へのリダイレクト (Redirect to Host Name)]: (オプション) リストから、キャプティブポータル要求のリダイレクト先のネットワークオブジェクトをクリックします。この値を省略すると、要求は管理対象デバイスの IP アドレスにリダイレクトされます。**Add (+)** をクリックして新しいネットワークオブジェクトを作成することができます。詳細については、[ホスト名ネットワークルール条件にリダイレクト \(7 ページ\)](#) を参照してください。

このオプションを使用するには、管理対象デバイスで Snort 3 が有効になっている必要があります。
- [ポート (Port)]: 使用するキャプティブポータルのポートを入力します。このポートは、キャプティブポータルに対して一意であり、設定したアクセス制御ルールと一致する必要があります ([キャプティブポータルの設定パート 3: TCP ポートアクセスコントロールルールの作成](#)を参照) (デフォルトは 885) 。
- [最大ログイン試行回数 (Maximum login attempts)]: ログインが失敗するまでの最大ログイン試行回数を入力します (デフォルトは 3) 。
- [ファイアウォール全体でアクティブ認証セッションを共有 (Share active authentication sessions across firewalls)]: オフにして Management Center を有効にすると、ユーザーが前回とは異なる管理対象デバイスを使用してネットワークにアクセスするたびに再認証が強制されます。

このオプションの詳細については、[キャプティブポータルフィールド](#)を参照してください。
- [アクティブ認証応答ページ (Active Authentication Response Page)]: キャプティブポータルユーザー用のシステム提供ログインページまたはカスタムログインページを選択します。オプションの詳細については、[キャプティブポータルフィールド](#)を参照してください。

- ステップ 8** [保存 (Save)]をクリックしてアイデンティティポリシーの変更内容を保存します。
- ステップ 9** [ルール (Rules)]タブをクリックします。
- ステップ 10** [ルールの追加 (Add Rule)]をクリックします。
- ステップ 11** ルールの [名前 (Name)]を入力します。
- ステップ 12** リストから [アクティブ認証 (Active Authentication)]をクリックします。

ステップ 13 [レルムおよび設定 (Realms & Settings)] タブページをクリックし、次のいずれかのセクションに進みます。

次のタスク

次のいずれかのセクションに進みます。

- [レルムを使用したアクティブ認証 \(22 ページ\)](#)
- [レルムシーケンスを使用したアクティブ認証 \(23 ページ\)](#)

レルムを使用したアクティブ認証

このタスクでは、レルムと使用可能な認証プロトコル (現時点では、**HTTP 基本**、**NTLM**、**Kerberos**、**HTTP ネゴシエート**、または **HTTP 応答ページ**) を使用してキャプティブ ポータルユーザーを認証する方法について説明します。

始める前に

[アクティブ認証ルールによるサンプルアイデンティティ ポリシーの作成 \(19 ページ\)](#) で説明されているタスクを完了します。

手順

- ステップ 1** [アクティブ認証ルールによるサンプルアイデンティティ ポリシーの作成 \(19 ページ\)](#) から続行します。
- ステップ 2** [レルムおよび設定 (Realms & Settings)] タブページで、[米国東部 (US-East)] をクリックします。
- ステップ 3** [認証プロトコル (Authentication Protocol)] リストから、[NTLM] をクリックします。
- 次の図は例を示しています。

The screenshot shows the 'Add Rule' configuration window. At the top, there are fields for 'Name' (Active), 'Enabled' (checked), 'Insert' (into Category), and 'Standard Rules'. Below these are tabs for 'Zones', 'Networks', 'VLAN Tags', 'Ports', and 'Realm & Settings'. The 'Realm & Settings' tab is active, showing 'Authentication Realm' (US-East (AD)), 'Authentication Protocol' (NTLM), and 'Exclude HTTP User-Agents' (None). There are 'Cancel' and 'Add' buttons at the bottom right.

レルムを選択すると（例のように）、システムは、ルールに一致するユーザーを、そのレルムで検索します。ユーザーが見つからない場合、そのユーザーは[不明 (Unknown)]として識別されます。

ステップ 4 [追加 (Add)] をクリックします。

ステップ 5 (オプション) ネットワークオブジェクトでトラフィックをフィルタ処理するには、[Identity Source] タブをクリックします。リストから、この ID ポリシーのトラフィックのフィルタ処理に使用するネットワークオブジェクトをクリックします。新しいネットワークオブジェクトを作成するには、**Add (+)** をクリックします。

ステップ 6 アイデンティティ条件を設定します ([アイデンティティルールの条件 \(6 ページ\)](#) を参照)。

ステップ 7 アイデンティティルールをアクセス制御ルールに関連付けます ([アクセス制御への他のポリシーの関連付け](#) を参照)。

ステップ 8 設定変更を管理対象デバイスに展開します ([設定変更の展開](#) を参照)。

レルムシーケンスを使用したアクティブ認証

このタスクでは、レルムシーケンスを使用してキャプティブ ポータル ユーザーを認証する方法について説明します。この認証では、「HTTP 基本」または「HTTP 応答ページ」認証プロトコルに制限されます。

始める前に

[アクティブ認証ルールによるサンプルアイデンティティポリシーの作成 \(19 ページ\)](#) で説明されているタスクを完了します。

手順

- ステップ 1** [アクティブ認証ルールによるサンプルアイデンティティポリシーの作成 \(19 ページ\)](#) から続行します。
- ステップ 2** [レلمおよび設定 (Realms & Settings)] タブページで、リストからレلمの名前をクリックします。
- ステップ 3** リストの [US-East] をクリックします。
- ステップ 4** [プロトコル (Protocol)] リストから、[HTTP 応答ページ (HTTP Response Page)] をクリックします。

次の図は例を示しています。

レلمシーケンスを選択した場合 (例のように)、システムは、レلمシーケンスで指定された順序でシーケンス内のレلمを検索します。シーケンスの最初のレلمは、「デフォルト」レلمと呼ばれます。これは、ユーザーが変更しない場合に使用されるレلمです。ユーザーが見つからない場合、そのユーザーは [不明 (Unknown)] として識別されます。






(以前のバージョンからバージョン 7.4.1 にアップグレードした場合のみ)。 [カスタム認証フォームの更新](#) で説明されているシーケンスでレلمのリストが表示されるように、HTTP 応答ページを編集します。

- ステップ 5** [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 6** (オプション) ネットワークオブジェクトでトラフィックをフィルタ処理するには、[Identity Source] タブをクリックします。リストから、この ID ポリシーのトラフィックのフィルタ処理に使用するネットワークオブジェクトをクリックします。新しいネットワークオブジェクトを作成するには、**Add (+)** をクリックします。
- ステップ 7** アイデンティティ条件を設定します ([アイデンティティルールの条件 \(6 ページ\)](#) を参照)。
- ステップ 8** アイデンティティルールをアクセス制御ルールに関連付けます ([アクセス制御への他のポリシーの関連付け](#) を参照)。

ステップ9 設定変更を管理対象デバイスに展開します（[設定変更の展開](#)を参照）。

アイデンティティポリシーの管理

手順

- ステップ1 Management Center にログインします。
- ステップ2 [ポリシー（Policies）]>[アクセス制御（Access Control）]>[アイデンティティ（Identity）] をクリックします。
- ステップ3 ポリシーを削除するには、[削除（Delete）]（）をクリックします。コントロールが淡色表示されている場合、設定は先祖ドメインに属しており、設定を変更する権限がありません。
- ステップ4 ポリシーを編集するには、ポリシーの横にある[編集（Edit）]（）をクリックし、[アイデンティティポリシーの作成（3 ページ）](#)の説明に従って変更を行います。代わりに[表示（View）]（）が表示される場合、設定は先祖ドメインに属しており、設定を変更する権限がありません。
- ステップ5 ポリシーをコピーするには、[コピー（Copy）]（）をクリックします。
- ステップ6 ポリシーのレポートを生成するには、[現在のポリシーレポートの生成](#)の説明に従って[レポート（Report）]（）をクリックします。
- ステップ7 ポリシーを比較する方法については、[ポリシーの比較](#)を参照してください。
- ステップ8 ポリシーを整理するフォルダを作成するには、[カテゴリの追加（Add Category）] をクリックします。

次のタスク

設定変更を展開します [設定変更の展開](#)を参照してください。

アイデンティティルールの管理

手順

- ステップ1 Management Center にログインします。
- ステップ2 [ポリシー（Policies）]>[アクセス制御（Access Control）]>[アイデンティティ（Identity）] をクリックします。

- ステップ3** 編集するポリシーの横にある **[編集 (Edit)]** (✎) をクリックします。代わりに **[表示 (View)]** (👁) が表示される場合、設定は先祖ドメインに属しており、設定を変更する権限がありません。
- ステップ4** アイデンティティルールを編集する場合は、**[編集 (Edit)]** (✎) をクリックし、**アイデンティティポリシーの作成 (3 ページ)** の説明に従って変更を行います。
- ステップ5** アイデンティティルールを削除するには、**[削除 (Delete)]** (🗑) をクリックします。
- ステップ6** ルール カテゴリを作成するには、**[カテゴリの追加 (Add Category)]** をクリックし、位置とルールを選択します。
- ステップ7** **[保存 (Save)]** をクリックします。

次のタスク

- 設定変更を展開します [設定変更の展開](#) を参照してください。

ユーザー制御のトラブルシューティング

ユーザー ルールの予期しない動作に気付いたら、ルール、アイデンティティ ソース、またはレールの設定を調整することを検討してください。その他の関連するトラブルシューティング情報については、以下を参照してください。

- [ISE/ISE-PIC または Cisco TrustSec の問題のトラブルシューティング](#)
- [TS エージェント アイデンティティ ソースのトラブルシューティング](#)
- [キャプティブ ポータルのアイデンティティ ソースのトラブルシューティング](#)
- [レールとユーザーのダウンロードのトラブルシューティング](#)

レール、ユーザー、またはユーザーグループを対象とするルールがトラフィックと一致しない TS エージェントまたは ISE/ISE-PIC デバイスのモニター対象に多くのユーザーグループを設定した場合、またはネットワークでホストにマップされるユーザー数が非常に多い場合、Management Center のユーザー制限が原因で、システムがユーザーレコードをドロップすることがあります。その結果、ユーザー条件のルールが、一致することが想定されているトラフィックと一致しない可能性があります。

ユーザーグループまたはユーザーグループ内のユーザを対象とするルールが、一致することが想定されているトラフィックと一致しない

ユーザーグループ条件を含むルールを設定する場合は、LDAP または Active Directory サーバでユーザーグループを設定する必要があります。サーバが基本的なオブジェクト階層でユーザーを整理している場合、システムはユーザーグループ制御を実行できません。

セカンダリ グループ内のユーザを対象とするルールが、一致することが想定されているトラフィックと一致しない

Active Directory サーバのセカンダリ グループのメンバーであるユーザを含めるか除外するユーザグループ条件を含むルールを設定する場合、サーバは報告するユーザの数を制限していることがあります。

デフォルトでは、Active Directory サーバはセカンダリ グループから報告するユーザの数を制限します。この制限は、セカンダリ グループ内のすべてのユーザが Management Center に報告され、ユーザ条件を含むルールでの使用に適するようにカスタマイズする必要があります。

ルールが、初めて表示されたユーザと一致しない

システムは、以前に表示されていないユーザからのアクティビティを検出すると、サーバからそれらのユーザに関する情報を取得します。システムがこの情報を正常に取得するまで、このユーザに表示されるアクティビティは、一致するルールによって処理されません。代わりに、ユーザーセッションが、一致する次のルール（または該当する場合はポリシーのデフォルトアクション）によって処理されます。

たとえば、次のような状況が考えられます。

- ユーザー グループのメンバーであるユーザーが、ユーザー グループ条件を含むルールに一致しない。
- ユーザーデータの取得に使用されたサーバが Active Directory サーバである場合、TS エージェントまたは ISE デバイスによって報告されたユーザーがルールと一致しない。

これにより、システムがユーザー データをイベント ビューおよび分析ツールに表示するのが遅れる可能性があることに注意してください。

ルールがすべての ISE/ISE-PIC ユーザと一致しない

これは想定されている動作です。Active Directory ドメインコントローラで認証された ISE/ISE-PIC ユーザに対してユーザー制御を実行することができます。LDAP、RADIUS、または RSA ドメインコントローラで認証された ISE/ISE-PIC ユーザーに対するユーザー制御は実行できません。

ユーザーとグループによる大量のメモリの使用

ユーザーとグループの処理によって大量のメモリが使用されている場合、ヘルスアラートが表示されます。すべてのユーザーセッションが Management Center のすべての管理対象デバイスに伝達されることに注意してください。Management Center がメモリ容量の異なるデバイスを管理している場合、メモリ容量が最も小さいデバイスによって、システムがエラーなしで処理できるユーザーセッションの数が決まります。

アイデンティティプロセスに割り当てられたメモリを調整することはできません。デバイスに使用可能なメモリがある場合でも、メモリ不足の問題を報告することがあります。問題が解決しない場合、次の選択肢があります。

- 容量の小さい管理対象デバイスをサブネットに分離し、パッシング認証データをそれらのサブネットに報告しないように ISE/ISE-PIC を設定します。

『*Cisco Identity Services Engine Administrator Guide*』のネットワークデバイスの管理に関する章を参照してください。

- セキュリティグループタグ (SGT) の登録を解除します。
詳細については、「[ユーザー制御用 ISE の設定](#)」を参照してください。
- 管理対象デバイスをメモリが大きなモデルにアップグレードします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。